

## 第 2 学年 英語科学習指導案

日 時 平成 19 年 7 月 3 日 (火) 5 校時

学 級 2 年 1 組 (男子 14 名 女子 7 名 計 21 名)

指導者 高橋 眞喜子

David Manallo

1. 単元名 Multi Plus 1 わたしの夢  
New Horizon English Course 2

### 2. 単元について

#### (1) 教材について

本教材は、4 技能(読む・聞く・書く・話す)が統合された自己表現活動を扱っている。基本文である **I want to ~** をベースに作られた将来の夢についての英文から、さまざまな展開が可能な教材である。主な文法事項である不定詞(名詞的用法)を用いた **I want to ~** は、自分の夢や将来なりたいものを表現しやすく、**Because** 節を用いれば相手に理由を伝えることもできる。

中学 2 年生になると、進路指導などで将来就きたい職業について考えさせる機会がある。日本語では自分の夢を語るの恥ずかしいと思う生徒でも、英語によりそれを可能とする教材でもある。

#### (2) 生徒について

生徒は 1 年生の頃より、英語の授業に興味をもって取り組んでいる。特に Phonics、Simon says、What am I? Games など、ALT が一緒に授業では、さらに積極的に言語活動を行っている。

自己紹介、Show and Tell などを用いて、スピーチ活動も行わせてきたが、人前で発表することが苦手で、英語への苦手意識や不安感を抱えている生徒が多い。ビデオ撮りしながらの発表会など、必要に迫られて発表することにより、相手に伝えることの大切さや、暗記して英語で発表ができたという成就感をもたせる必要がある。また、なかなか基礎・基本の定着が困難な生徒もあり、特に「話すこと」と「書くこと」が、他の能力に比べて低い。毎時間の Writing test や Dictation test など既習事項の確認を繰り返し行うことにより、文法や語句を正確に身に付けさせていく必要がある。

#### (3) 指導について

実践的コミュニケーション能力の基礎を培うために、実際の言語活動場面の設定として「自分の夢を発表しよう」というスピーチを行わせたい。基本的な表現として、既習の **I want to...** を中心に **be going to ~** や、不定詞(副詞的用法)などを用いて自分の夢を書かせ、これらの用法を確実に理解し、適切に自己表現させたい。また、スピーチ活動なので、キング牧師の "**I have a dream**" を聞かせ聴衆に伝わる話し方を意識させたい。声の大きさ、アイコンタクト、間の取り方など聞き手が興味をひくような話し方を工夫させて、聞き手に伝わるスピーチを行わせたい。自己評価や相互評価などの場面では、友達のスピーチの良かった点と励ます点を話し合うことで、能動的なかわり合いをもたせていくようにしたい。

### 3. 単元の到達目標

#### (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

ア 将来の夢についてみんなの前で積極的に発表しようとしている。

イ 言語活動を振り返り、自分の発表において足りないところに気づき、改善しようとしている。

#### (2) 表現の能力

将来の夢についてまとまりのある文章を10文以上で書き、発表することができる。

#### (3) 理解の能力

お互いの夢について聞き、相手が伝えようとしている情報を正確に把握することができる。

#### (4) 言語や文化についての知識・理解

ア 将来の夢を紹介する文を書くために必要な文型・表現方法を理解できる。

イ さまざまな職業についての用語（職業名）を理解することができる。

### 4. 指導計画と評価方法(計3時間)

《観点》 = 《関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：表現の能力 理：理解の能力

言：言語や文化についての知識・理解》

評価の方法 時間・ 内容		具体の評価規準			《観点》 評価手段
		A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:Bへ達するための支援	
わ た し の 夢	1 不定詞(want to...)を使った表現を使った文を聞く	将来の夢についての英文を聞き、内容をほぼ正確に理解し、自分がなりたい職業、将来何をしたいかを考えることができる。	将来の夢についての英文を聞き、大まかな内容を理解し、自分がなりたい職業、将来何をしたいかを考えることができる。	個別指導の際に、日本文の内容から正しく理解させ、興味をもたせる。	《関》《表》《理》 ・Listening 《理》 ・Reading
		I want to be a~, I want to do~の文の意味・用法を理解し、対話したり、わかりやすく発表したりできる。	I want to be a~, I want to do~の文の意味・用法を理解し、発表することができる。	I want to be a~, I want to do~の文の構造を理解させる。	《関》《表》《言》 ・Writing 《関》《表》 ・Speaking <u>Worksheets</u>
	2 キング牧師の“I have a dream.”の演説を聞く	キング牧師の演説を聞いて、話す速度や声の大きさ、間の取り方を理解して、キング牧師に習って感情を込めて力強く流れるようにスピーチするにはどうすればいいか、理解できる。	キング牧師の演説を聞いて、話す速度や声の大きさ、間の取り方を理解して、キング牧師に習ってスピーチするにはどうすればいいか、理解できる。	キング牧師の演説を、話す速度や声の大きさ、間の取り方に注意して聞かせる。	《関》《理》 ・Listening <u>Worksheets</u>

		自分のスピーチの中でどこを力強く読めばいいか、伝えたいことが効果的に伝わる間の取り方、声の大きさなど、工夫して、練習できる。	スピーチの中で話し方のポイントに沿って、声の大きさや、話す速度に注意し、工夫して、練習できる。	話し方のポイントを再確認させ、話し方の基本を基にゆっくりと範読に続いて練習させる。	Speaking 《理》《言》《表》
3		本時（下記参照）			

## 5. 本時について

### (1) 目標

ア 既習事項と本時の文型を用いて、自分の将来の夢についてのスピーチができる。【話す - 表現】

イ 相手の自己紹介のスピーチを聞いて、内容を正しく理解できる。【聞く - 理解】【言語】

ウ 言語活動に積極的に取り組もうとしている。【聞く・話す - 関心・意欲・態度】

### (2) 評価方法

評価方法 時間・内容	具 体 の 評 価 規 準			《観点》 評価手段	
	A: 十分満足できる	B: おおむね満足できる	C: Bへ達するための支援		
わ た し の 夢	3 将来の夢についてスピーチをする	クイズの質問や友達の発表を顔を見て聞こうとしている。	クイズの質問や友達の発表を聞こうとしている。	個別指導をして、内容を理解させる。	《関》 ・ Who am I? のクイズによる導入。 ・ ペアワーク・グループ活動の観察 ・ ワークシート
	キング牧師の "I have a dream." を速度や間に気を付け、大きな声で読もうとしている。	キング牧師の "I have a dream." を大きな声で読もうとしている。	キング牧師の "I have a dream." を大きな声で読むことができるように個別指導する。	《表》 ・ ペアワーク・グループワークでの観察	
	発表の場で十年後の自分のことを want to ~ を使って英語で暗記して相手の目を見て発表することができる。	発表の場で十年後の自分のことを want to ~ を使って英語で暗記して発表することができる。	発表の場で十年後の自分を want to ~ を使って英語で紙を見ながら発表させる。		《理》 ・ 音読練習の取り組みの様子を観察
	クイズの質問や友達の発表の内容を正しく聞き取り、理解することができる。	クイズの質問や友達の発表の内容を聞き取り、大まかな内容を理解することができる。	教師の支援のもと、クイズの質問や友達の発表の内容を振り返らせる。	《言》 ・ ワークシートの記入	
	発表の場に応じた言語表現が確実に身に付いている。	発表の場に応じた言語表現が身に付いている。	発表の場に応じた言語表現をさらに説明して理解させる。		
	様々な職業について、英語の表現の仕方を和英辞典を使って調べ理解することができる。	様々な職業について、英語の表現の仕方を調べ理解することができる。	様々な職業について、英語の表現の仕方をまとめたものを理解させる。		

(3) 指導の構想(研究の重点とのかかわり)

ア 基礎的・基本的な内容の定着を図る繰り返し、振り返り学習の設定と工夫

(ア) 授業の最初に英語の歌を歌ったり、詩の暗唱・音読などを取り入れたりする。

(イ) Who am I? のような日常行っているゲーム的な活動を取り入れる。

イ 評価規準表を有効に活用した目標と指導と評価の一本化

具体の評価規準 B に沿った適切な学習課題を設定する。評価規準表をもとに、教材の内容が学習サイクルにあてはまるように生徒の実態に応じた学習活動を適切に組織化する。

ウ 学習内容を確かに定着させるための「能動的なかわり合い」

全員を具体評価規準 B に到達させるために、本時では小グループでの発表形式で「話すこと」の表現力を高めることに重点をおいて指導する。Worksheets への記入の際に学習内容が身に付いているか、お互いのよさを評価し合っているか確認したい。

(4) 展開

段階	学習の流れ = 生徒個々の意識	学習活動		
		生徒の活動	指導上の留意点	
			JTE	ALT
導入 15分	1. 振り返り 克服したい、向上したい  2. 見通し確認 何を学ぶのか 何ができればいいのか  3. 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Greetings</li> <li>• Song</li> <li>• Short conversation</li> <li>• Who am I ?</li> <li>• 学習課題を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Greetings</li> <li>• Song</li> <li>• Short conversation</li> <li>• 既習表現の復習</li> <li>• 生徒に内容を確認させ、課題を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Greetings</li> <li>• Song</li> <li>• short conversation</li> <li>• 生徒に英語で質問する。</li> </ul>
展開 30分	4. モデル理解 どうすればいいのか どのようにやればいいのか  5. 個々の課題追究 覚えたい 使えるようになりたい  6. 能動的なかわり合い 確かめ合いたい  7. 課題解決	課題 want to ~ の文を使って自分の夢をスピーチしよう。の補助  <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペア練習</li> <li>• スピーチのポイントを理解する。</li> <li>• グループ内で発表し合う。</li> <li>• 各班員の夢と良かった点と励ましの言葉をワークシートに記入する。</li> <li>• 「他の人にも聞いてもらいたいスピーチ」を決める。</li> <li>• グループの代表が全員の前で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ALT の発表に向けてのポイントの補足をする。 【評価】関・言</li> <li>【評価】表・理</li> <li>• グループ発表を援助する。</li> <li>• お互いのよさを認め合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発表のポイントを英語で説明する。</li> <li>• グループ発表を援助する。</li> <li>• 発表に評価を行う。</li> </ul>
終末 5分	8. まとめ 達成感 自信  9. 自己評価 何ができたのか 何ができないのか	活動について振り返る want to~を使うと自分の夢を効果的に伝えることができる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の学習内容への取り組みを振り返りワークシートに自己評価を書く。</li> </ul>	生徒の活動を評価する  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己評価について指示を出す。</li> </ul>	生徒の活動を評価する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒の活動について英語でコメントする。</li> </ul>